

保険・年金 フォーカス

定額年金主導で米国個人年金販売額は2年連続過去最高を更新

-独立系販売チャンネルが存在感を増す-

保険研究部 主任研究員 磯部 広貴

(03)3512-1789 e-mail: h-isobe@nli-research.co.jp

1—はじめに

米国で個人年金の販売が好調だ。2021年の販売額2,546億ドルは前年比16%増とパンデミックの影響から早期に回復を果たした。続く2022年は過去最高の販売額3,128億ドルで初の3,000億ドルを超えた。

この保険・年金フォーカスでは、米国における生保・年金のマーケティングに関する代表的な調査・教育機関であるLIMRAが本年3月に公表した2023年販売実績(確定値)¹と昨年11月に公表した中期見通しに基づき、米国個人年金市場の現状をお伝えしたい。

2—2023年の販売実績

2023年も年間を通じて好調な販売が持続された。直近となる第4四半期(2023年10月~12月)の実績は1,157億ドルと、四半期として過去最高であった第1四半期(2023年1月~3月)の実績940億ドルを大きく凌駕した。2023年通年では3,854億ドルと、過去最高であった2022年に比し23%の大幅増加を果たした。

その販売実績の中でも変額年金と定額年金では様相が異なる。変額年金においては、元本保証はないものの伝統的変額年金に比し安全性の高い登録指数連動年金(RILA)が第4四半期(2023年10月~12月)に初めて伝統的変額年金を上回り、通年でも前年比15%増となった。しかし株価が堅調に推移した1年であったにもかかわらず、伝統的変額年金が前年比17%の減少に陥ったことを受け、変額年金全体では前年比4%減となった。

その一方、定額年金は通年で前年比37%増の2,866億ドルの販売実績を確保した。

まず確定利付き据置定額年金は第4四半期に四半期としての最高記録を更新する585億ドルに至り、

¹ 速報値は本年1月24日に公表されていた。

通年でも1,649億ドルと過去最高であった前年比46%の大幅増加となった。人口動態として老後の備えを確保したい60歳以上人口が増えていく中、元本が保証されつつ銀行CDなどよりも高い金利を得られる確定利付き据置定額年金へ高齢層の資金が向かうことに驚きはないと分析されている。

定額指数連動年金（FIA）も前年比20%増の959億ドルで過去最高を更新した。高齢層からの元本確保型商品への需要の高さは前述の通りであるが、定額指数連動年金（FIA）においては独立系販売チャネル（エージェント／ブローカー）の取り扱いが増えていることが指摘されている。前年比で24%増、定額指数連動年金（FIA）の全販売額のうち74%を占める。特に定額指数連動年金（FIA）で独立系販売チャネルの存在感が増していることは、他の定額年金商品に比し販売手数料が高水準にあるものと筆者は推測する。

詳細は図表1の通りとなる。

【図表1：2022年-2023年の商品別個人年金販売額実績（単位：10億ドル）】

	2022					2023					第4Q 増加率	通年 増加率
	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	通年	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	通年		
変額年金	28.1	27.3	24.7	22.8	102.9	23.2	24.7	25.6	25.3	98.8	11%	-4%
伝統的変額年金	18.5	16.5	14.1	12.7	61.8	12.8	13.3	13.0	12.3	51.4	-3%	-17%
登録指数連動年金 (RILA)	9.6	10.8	10.6	10.1	41.1	10.4	11.4	12.6	13.0	47.4	29%	15%
定額年金	35.2	52.1	56.0	66.6	209.9	70.8	62.4	63.0	90.4	286.6	36%	37%
確定利付き据置 定額年金	15.9	28.7	30.0	38.4	113.0	41.5	30.5	34.4	58.5	164.9	52%	46%
定額指数連動年金	16.3	19.7	21.5	22.3	79.8	23.1	25.3	22.6	24.9	95.9	12%	20%
据置終身年金	0.4	0.5	0.5	0.7	2.1	0.8	1.1	1.0	1.3	4.2	83%	97%
確定利付き即時支払 定額年金	1.5	2.0	2.5	3.2	9.2	3.4	3.4	2.9	3.6	13.3	13%	45%
ストラクチャード セツルメント	1.2	1.2	1.5	2.0	5.8	2.0	2.1	2.1	2.1	8.3	5%	43%
合計	63.3	79.4	80.7	89.4	312.8	94.0	87.1	88.6	115.7	385.4	29%	23%

（資料） LIMRA: U. S. Individual Annuity Salese Survey, Fourth Quarter 2023より筆者が転記。

3——中期見通し(参考、2023年11月時点)

2023年11月時点のものではあるが、米国の個人年金市場に関するLIMRAの2026年までの見通しを紹介したい。骨子は以下4点となる。

- ① 2022年と2023年に経験した勢いが主な商品と業界全体の営業を支える。
- ② 経済環境は改善が見込まれる一方、予想される僅かな金利の低下が逆風となる。

③ 元本確保機能を持つ商品へは引き続き強い需要がある。

④ 保証された収入(年金給付)への需要が増大する。

これらを踏まえての具体的な見通しは図表2が示す通りである。2024 年は金利の低下を受けて定額年金の販売額が減少するものの、2025 年から 2026 年にかけては全商品において販売額の増加が見込まれている。

【図表 2：2023年-2026年の商品別個人年金年間販売額見通し（単位：10億ドル）】

	2022 実績	2023 見通し	2024 見通し	2025 見通し	2026 見通し
変額年金	102.9 -18%	94 - 103	103 - 112	113 - 122	120 - 129
伝統的変額年金	61.8 -29%	50 - 55	55 - 60	60 - 65	62 - 67
登録指数連動年金 (RILA)	41.1 6%	44 - 48	48 - 52	53 - 57	58 - 62
定額年金	209.9 62%	254 - 266	208 - 219	229 - 240	237 - 249
確定利付き据置 定額年金	113.0 113%	138 - 143	97 - 102	105 - 110	107 - 112
定額指数連動年金	79.8 25%	93 - 98	87 - 92	97 - 102	102 - 107
終身年金	11.3 37%	16.3 - 17.3	15.7 - 16.7	18.5 - 19.5	19.5 - 20.5
ストラクチャード セツルメント	5.8 38%	8.2 - 8.7	8.0 - 8.5	8.3 - 8.8	8.6 - 9.1
合計	312.8 23%	348 - 368	311 - 331	342 - 362	357 - 378

	→ 前年比増加
	→ 前年比同水準
	→ 前年比減少

※2022実績の下段は前年比増加率。

(資料) LIMRA: A Future View of Annuity Sales - Entering New Eta (2023年11月20日) より筆者が転記。

2023 年 11 月に公表された見通しのため、2023 年の水準が前章で報じた同年の確定実績よりもかなり少なくなっている点に留意いただきたい。2023 年の後半における定額年金へのニーズが想定を超える強さであったことが伺える。

尚、図表 1 と 2 に記された個別商品の概要については図表 3 を参照いただきたい。

【図表 3：個人年金各商品の概要】

変額年金	伝統的変額年金	Traditional variable annuities	株式運用等の実績に応じて積立金の変動する仕組み わが国の変額年金にもっとも近い商品 生存給付保証特約を付すことで、さまざまな保証を具備することができる
	登録指数連動年金 (RILA)	Registered index-linked annuities (RILA)	2010年に初めて登場した新しい商品で、2023年時点で提供している生保会社は17社 積立金がS&P500などの証券関連指数にリンクして変動する この点では定額指数連動年金とよく似ているが、契約者のリスク負担の様相が異なっている 元本保証はない（ただし損失を一定の範囲に抑える保証が付されている） 指数の成長を積立金に反映するが、所定の上限（キャップ）が設けられている 指数の成長が積立金の成長にリンクする程度は定額指数連動年金よりも大きい
定額年金	確定利付き据置定額年金	Fixed-rate deferred annuities	契約であらかじめ定めた年金の支払いが行われる純粋の定額年金 わが国の定額年金のイメージにもっとも近い商品 一定の利率保証期間（たとえば3年間）の途中で解約した場合には、その時点の金融情勢に応じて解約払戻金が調整（減額）される市場価額調整型の商品の占率が高まっている 点はわが国とは異なっている
	定額指数連動年金	Indexed annuities	保険料に付与される利率がS&P500などの証券関連指数に一部リンクして定められる年金 定額年金と言いつつも、積立金が指数に連動して変動する 元本を保証しつつ証券市場の成長の一定割合を所定の方式に従って顧客に還元する効果を持つ 伝統的変額年金と伝統的定額年金の中間的な位置づけ 生存給付保証特約を付すことで、さまざまな保証を具備することができる
	(据置) 終身年金	(Diferred) Income annuities	保険料を一時払いまたは分割払いで払い込み、年金で受け取る 年金受給は終身または一定期間であり、後者の場合も一生涯受け取ることを想定し定めることが多い 据置の場合は保険料を一時払いで払い込み、85歳等の所定の年齢到達時から終身年金の支払いが開始される
	確定利付き即時支払定額年金	Fixed immediate	保険料を一時払いで払い込み、払い込み後12か月以内に終身年金の支払いが開始される
	ストラクチャードセツルメント	Structured settlements	賠償金を年金払決済方式で支払う仕組み

（資料）松岡博司「米国個人年金市場の動向（2022年11月）」（2022年11月8日）の表1に基づき筆者作成。

4—おわりに

これまで見てきた通り、元本確保機能を有する定額年金を中心に米国の個人年金市場は絶好調と言える状態にある。2024年の減速を除けば、2025年から2026年にかけて年間3,000億ドルを優に超える販売額が期待されている。

とはいえ見通しの前提となる経済環境や金融政策が想定から外れる可能性もある。また、行政の動きも無視できない。バイデン政権が掲げるムダ手数料削減方針の下、労働省が昨年10月に公表した投資助言受託者の定義を実質的に拡大する規則案が成立した場合、小規模でコンプライアンス対応の体力が限られる独立系販売チャネルによる定額指数連動年金（FIA）販売にブレーキがかかる²ことになる。

今後の動向を引き続き、保険・年金フォーカスで取り上げていきたい。

以上

² 詳細は拙稿「[米国における投資助言受託者規制再燃と FIA（定額指数連動年金）への批判—年金商品監督を州に任せたままでよいのか—](#)」（2024.2.6）を参照いただきたい。